

○第5回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：平成26年7月25日（金）13:00～15:00

開催場所：大阪合同庁舎第1号館 第一別館3階第四会議室

出席者：近畿地方整備局河川部長、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山地砂防事務所長

三重県県土整備部長、奈良県県土マネジメント部長、和歌山県県土整備部長

天川村長、五條市長、野迫川村長（代理）、十津川村長、田辺市長（代理）、新宮市長、

熊野市長（代理）、紀宝町長、上北山村長（代理）、下北山村長（村長）、北山村長

関西電力(株)土木建築室長、電源開発(株)西日本支店長

近畿中国森林管理局（説明者）

議事要旨

1)規約改正

・事務局より規約改正(資料1)について説明。

→協議会で承認された。

2)各機関の取り組み状況の報告、意見交換

(1)堆積土砂の対応状況について

・近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県、紀の川ダム統合管理事務所、関西電力(株)、電源開発(株)西日本支店より資料2について説明。

(2)治山・砂防の取り組みについて

・近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県より資料3について説明。

(3)河道閉塞の対応状況について

・紀伊山地砂防事務所より資料4について説明。

(4)ダムの運用改善の対応状況について

・電源開発(株)西日本支店、紀の川ダム統合管理事務所より資料5について説明。

(5)熊野川の濁水長期化対策検討について

・近畿地方整備局河川部より資料6について説明。

→濁水対策について協力いただき県として感謝している。世界遺産であり観光資源であることから濁水の影響を危惧している。秋頃に一定の結果を出すとの事だが、9月初旬に開催される第2回検討会で結果が出るということか。(和歌山県部長)

→濁水対策技術検討会は3回を予定している。(近畿地方整備局河川部)

→和歌山県も協力していくので、良い結果が得られるように検討願いたい。(和歌山県部長)

→濁水対策技術検討会を立ち上げていただきありがとうございます。今後第2回、第3回と検討会を進め一定の結果を出していくということですが、議事の内容についてホームページで公表していただけるのか。(新宮市長)

→議事要旨を近畿地方整備局河川部のホームページに公表します。(近畿地方整備局河川部)

3)その他

- ・「大規模土砂災害対策研究機構」設立シンポジウム開催について事務局より報告。

(全体を通して)

→激特事業等について工事を進めていただき、地域も大変感謝しているところでございます。

また、紀宝町ではタイムラインの取り組みを行っており関係機関に協力いただきありがとうございます。先日の台風8号のときに、試験運用という形で取り組みをさせていただきました。タイムラインの計画と申しますか机上で計画したものが、現実的にはまだ問題点等があることを感じたところです。今後とも関係機関の協力をお願いしたい。

次に、河道閉塞の対応状況を紀伊山地砂防から話があり、各県の治山砂防事業を進めていただき大変感謝しております。また、熊野川の濁水対策技術検討会について設立いただき大変ありがたく思っております。

しかし下流の住民にとっては濁水は忍びがたい問題であり、1日も早く対策をお願いしたい。本日報告のあった各機関の取り組みが完成すれば濁水対策の軽減も進んでいくのではないかと考えております。大変気になるところでもあり次回でも結構なので、どのくらい事業が進み、濁水が軽減しているのかお聞かせ願いたい(紀宝町長)。

→紀伊山地砂防の事業年度は平成28年度事業完成を目指している。当面の目標として天然ダムの決壊、再崩落対策を中心に進めているところ。(紀伊山地砂防事務所)

→十津川筋の濁水が多く、これまで濁水軽減対策の取り組みを説明させていただいているところです。また、更なる取り組みとして、中小規模出水に対し濁水防止フェンスの設置について検討しているところで、濁水対策技術検討会の中で審議いただけると聞いており、審議結果を踏まえて対応させていただくように考えております。(電源開発(株)西日本支店長)

→上流に旭、瀬戸ダムがありますが、流域規模も小さいダムのため現状濁水に対する影響はほとんどないものと考えておりますが、必要があれば検討させていただきます。
(関西電力(株)土木建築室長)

→今の時点で、紀宝町長の満足いただける答えが出せる状況ではないが、濁水対策技術検討会も今後、第2回、第3回と進んでいきますので、その中で答えが出てくるものと考えております。

タイムラインについては、アメリカでサンディというハリケーンが来たときに大きな成果を上げたもので、幾つかの市町村で先行して取り組んでもらっているが、先ほど話があったように、現実的に難しいところもあるのが、やっけていく中で課題がクリアされていくと思いますので、このような取り組みがあるということを知っておいていただければと思います。(近畿地方整備局河川部長)

以 上